

平成27年度 病害虫発生予察 注意報第4号

平成27年11月25日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病害虫 ベと病
- 2 対象作物 白ネギ
- 3 対象地域 県北平坦部周年栽培産地
- 4 発生面積 多い
- 5 発生量 多い

6 注意報発表の根拠

- (1) ベと病の発生は、県北平坦部の白ネギ周年栽培地域において、平年より早い11月中旬に認められた。また所轄地域の普及指導機関から、本病の発生が多いとの情報を得ている。
- (2) 平成27年11月中旬の巡回調査において本病の発生は多く、発生面積、量ともに多発生した前年を大きく上回っていた。

11月中旬の巡回調査結果

発生圃場率 : 75.0% (平年: 6.3%、前年: 50.0%)

平均発病株率 : 40.5% (平年: 1.0%、前年: 6.0%)

- (3) 本病は菌糸および卵孢子で越冬するため、気温が低下する冬期間まで本病を対象とした防除を徹底し、本病原菌の越冬量を低下させることが重要となる。
- (4) 本病は15~20℃程度の温度と多湿条件で多発生する。向こう1ヶ月の気象条件は、高温多湿で経過すると予想されており、気温が低下する12月中旬まで発生に好適な条件が続くと予想される。

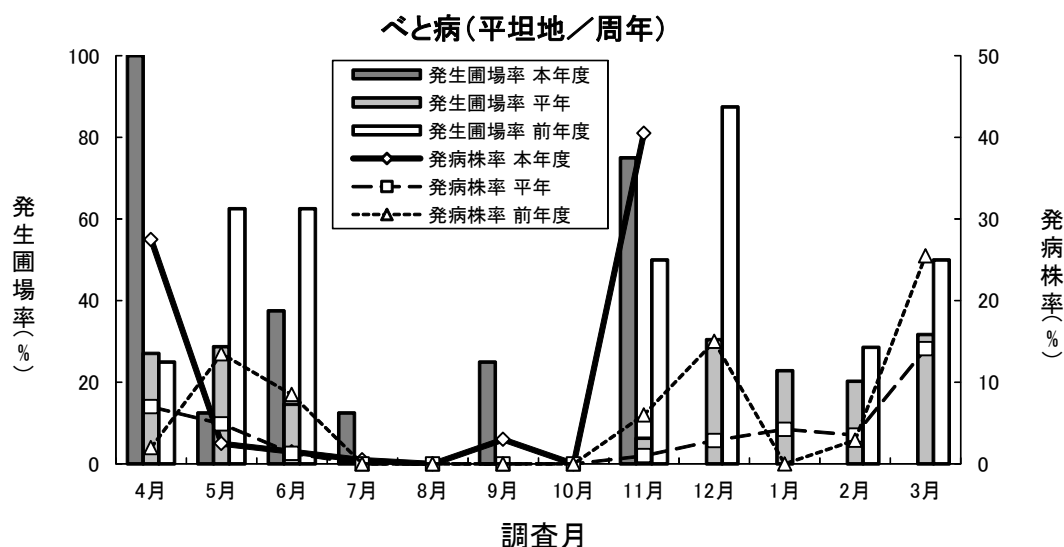


図1 平成27年度病害虫発生予察巡回調査における白ネギべと病の発生推移

7 防除時期及び防除法

- (1) 発生に好適な気象条件が続くと急激に蔓延する。このため、発生が認められていない圃場でも既に病原菌に感染している可能性があることから、気象状況を見ながら随時防除を実施する。
- (2) 同一系統薬剤を連続使用しないようにし、他系統薬剤とのローテーション（輪番）使用を行う。治療効果の高い薬剤を散布した後、予防剤を中心とした散布に移行すると効果的である。
- (3) 白ネギは薬剤が付着しにくいので、展着剤を使用するとともに、株元まで薬液が十分にかかるよう丁寧に散布する。
- (4) 薬剤散布は、曇雨天日や朝夕を避け、できるだけ晴天日の日中に行う。
- (5) 感染源となる収穫後のネギ残さは、できるだけ圃場外に持ち出し処分する。
- (6) 防除薬剤は、大分県農林水産研究センター農業研究部病害虫チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照する。薬剤の使用に当たっては、農薬使用基準（使用方法、使用回数等）を遵守する。
(ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/oita/>)